

第2回 「シネマとトーク」のご案内

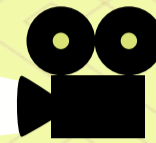
他人との違いに気がつき、自分は何者かを理解することは大切です。
他人の痛みをわかるようになるのは大切だと言葉で言うのは簡単ですが、どのようにすれば心豊かに他人を理解することができるのか…一緒に考えたいと思います。

今回の映画は、視覚障がい者の子どもがいじめの中でもたくましく成長していく姿をとおして、わかりあうってどういうことなのかを考えます。

視覚障がい者のための副音声付きの映画です。

「なるほど、そういうふうに説明すればわかりやすいのか」といったことにも気づいてもらえればと思います。

(にじいろプロジェクト代表 黒多みなみ)



【日時】2018年6月2日(土) 13:30~16:00

【会場】向島ニュータウン 1街区集会所 (伏見区向島二ノ丸町151-58)

【鑑賞作品】見えないから見えたもの (2015年 副音声・字幕あり)

原作：竹内昌彦著 (105分)



託児をご希望の方は、5/25までにご連絡ください。



参加費無料

【トーク】中田壽子氏

コーヒー・お菓子の
ふるまいあり

【主催】にじいろプロジェクト 【共催】視覚障がい者協会伏見支部・京都文教大学ニュータウン研究会・愛隣館・京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」

【問合せ先】にじいろプロジェクト事務局 (担当：佐藤) (075) 604-6159

映画の紹介

1945年2月、父の赴任先、中国の天津で生まれた竹内昌彦。

終戦後、日本に引き揚げる際、栄養失調・重い肺炎を患い、ほとんど視力を失う。

目が見えないことから学校でいじめを受けるが、彼は屈することなくいじめに立ち向かう。

完全に視力を失った昌彦は盲学校へ通い、1960年、卓球で東京パラリンピックに出場し金メダルを獲得。

その後、盲学校の教師としての様々な経験や親の反対を押し切った結婚など、波乱万丈の半生を描く。

あらためて、「生きるとは?」「幸せとは?」何なのかを自身に問いかける。

推薦者 中田壽子氏のプロフィール

1952年生まれ。高校卒業後、技術取得のため京都府立盲学校に進学。京都府視覚障がい者協会に入会後、地域で世話人の活動を続ける。

二の丸・二の丸北あんしんネットワーク等にも参加し、障がい理解の普及・啓発活動も行っている。5街区在住。

